

地域と歩むコミュニケーション紙

# MIYAKO

Vol. 16 2018 秋号



## 地域協議会だより



### 主な内容

#### 新委員でスタート

宮古市地域協議会の委員紹介

#### みんなの力で地域を創る

平成30年度実施事業紹介

#### イベントカレンダー

**ふるさと再発見** 義経の足跡をたどる ~其の参~

表紙写真 平成30年度宮古市地域創造基金事業「おらほの夏まつり2018」 撮影者:菊池靖氏

田老地域



# 新委員でスタート

## ～宮古市地域協議会の委員紹介～



### ◆ 4 地区合同会議の様子

地域協議会は、住民や地域に根ざした身近な地域づくりを行うため、合併前の旧市町村ごとの活動の要として組織されました。現在、4地域それぞれで、地域課題についての協議、地域創造基金事業の選考などの活動を行っています。平成30年6月26日には、4地域の合同会議を開催し、宮古・田老・新里地域は第8期、川井地域は第6期の委員に委嘱状を交付しました（任期：平成30年6月26日～平成32年3月31日）。そのほか、市のまちづくりについて市長から説明を受け、地域自治区・地域協議会の役割について確認をしました。今後も地域の皆さんによるまちづくりへの取り組みを支援していく活動を進めていきます。

### ◆ 地域協議会委員

#### 田老地域

副会長  
委員

伊藤 広子（田老一小PTA）  
加倉 則雄（田老一中PTA）  
下澤 昇（学識経験者）  
下西 剛（宮古市田老地区復興まちづくり協議会）  
高屋 舖峰子（たちちやん協同組合）  
大棒 レオ子（田老漁業協同組合）  
中島 正史（田老地区自治会連合会）  
政屋 真理（たう産直親とれたう）  
山本 泰規（田老町漁業協同組合）



会長  
津田 重雄  
（田老スタンプ会）

#### 宮古地域

副会長  
委員

一石 初恵（宮古商工会議所女性会）  
姉石 華寿枝（ふれあいステーションあい）  
梅澤 良子（あじさいの会）  
金野 侑（みやこラボ）  
志賀 政信（陸中宮古青年会議所）  
野澤 富士夫（宮古信用金庫）  
早川 輝（みやっこベース）  
村上 裕敏（学識経験者）  
吉田 育子（みずき会）



会長  
赤沼 利彦  
（学識経験者）

#### 川井地域

副会長  
委員

豊坂 一寿（学識経験者）  
内澤 絹枝（箱石地域づくり委員会）  
大洞 健一（あおば会）  
佐々木 絹子（川井中PTA）  
佐羽 内百合子（川井心生会）  
尻石 光男（江黎地域づくり委員会）  
高森 昭夫（小国地域づくり委員会）  
橋本 聡（川内地域づくり委員会）  
古舘 博（川井地域づくり委員会）



会長  
中坪 徳裕  
（門馬地域自治振興協議会）

#### 新里地域

副会長  
委員

佐々木 克明（腹帯区）  
大川 原稔範（刈屋区）  
門坂 道弘（新里中PTA）  
川崎 賢一（新里紫桐会）  
菅野 悟（和井内区）  
慶徳 雄二（学識経験者）  
敬礼 孝（宮古市社会福祉協議会）  
関口 慶子（墓目婦人会）  
田鎖 春雄（墓目区）



会長  
茂市 敏之  
（茂市区）

# みんなの力で地域を創る 平成31年度 地域創造基金事業募集!!



「宮古市地域創造基金」は、地域における住民の連帯強化および地域の振興を図り、市民の一体感の醸成に資する事業に対し、その事業経費を助成する制度です。

※地域創造基金は、旧宮古市、旧田老町、旧新里村の合併後10年間(平成26年度まで)を目途として、地域の活性化を目的に設立しました。平成22年には旧川井村と合併し、新たな宮古市として動き出しましたが、平成23年に発生した東日本大震災津波により、地域活動に多大な影響が生じたことから、5年間延長して、現時点では平成31年度で終了の予定となっています。

## ◆対象となる事業

各地域自治区内における次のような事業に充当します。詳しくは次のページの活用事業をご覧ください。

1. 各地域自治区の住民の連携強化に  
資すると認められる事業

- ①地域の自主的な活動
- ②地域のイベント
- ③自治会(町内会)等の組織づくり及び活動支援
- ④自主防災組織づくり及び活動支援
- ⑤その他地域協議会が必要と認める事業

2. 各地域自治区の地域の振興に  
資すると認められる事業

- ①地域自治区の振興に関するイベント
- ②地域文化の伝承等
- ③地域づくり団体等の育成支援
- ④その他地域協議会が必要と認める事業

## ◆応募資格

市内に所在する団体(自治会、実行委員会など)

## ◆応募期限

応募の受付は、下記のとおりです。各地域自治区事務所に備え付けの申請書に所要事項を記載し、持参または郵送にて申し込んでください。また、事業内容などについての相談にも応じます。

(※申請書は市のHPからダウンロードできます。)

応募期限	事業実施時期
平成30年10月12日	平成31年4月1日～平成32年3月20日前後

※地域協議会での審査を経て、採択となります。 ※応募状況によっては、年度途中で再募集します。

## ◆申込・問合せ先

○宮古地域自治区  
〒027-8501 宮古市新川町2-1  
宮古市役所 企画部企画課企画調整係  
☎ 68-9064 FAX 63-9114

10月1日からは、市役所の移転に伴い、住所が『宮古市宮町一丁目1-30』に変わります。郵便番号等その他については変更ありません。

○田老地域自治区  
〒027-0301 宮古市田老字館が森129-2  
田老総合事務所地域振興係  
☎ 87-2111 FAX 87-3667

○新里地域自治区  
〒028-2101 宮古市茂市2-112-1  
新里総合事務所地域振興係  
☎ 72-2111 FAX 72-2116

○川井地域自治区  
〒028-2302 宮古市川井2-186-1  
川井総合事務所地域振興係  
☎ 76-2111 FAX 76-2042



# みんなの力で地域を創る 新規事業にインタビュー

地域創造基金は地域住民の連帯強化や地域振興のための事業に活用されています。今年度の新規事業にインタビューしてみました。



## 宮古港海戦の歴史を広く内外に広める事業 宮古港海戦の会

**Q.** この事業を始めようと思ったきっかけは何ですか？  
A 2019年は、宮古港海戦から150年の年にあたります。しかし、宮古市の貴重な歴史である宮古港海戦については、市民の中にも知らない人がまだまだたくさんいると感じています。そのため、市民や市民以外の人にも見える形でその歴史を広める活動を行い、宮古市を盛り上げるの一助になればと思います、事業を始めました。

**Q.** どのようなことをするのですか？

A 当時のような衣装を着て様々なイベントに参加し、イベントを盛り上げます。また、歌や大型紙芝居を使って、宮古港海戦の歴史を周知します。

**Q.** 現在の事業の進捗状況はどのような状況ですか？

A 5月6日に浄土ヶ浜遊覧船船着き場で宮古港海戦慰霊祭を行い、観光客の方にも衣装を着て参加していただきました。観光客の方には、「旅の良い思い出になった」と喜んでいただきました。その後、遊覧船で宮古湾を一周し、当時の犠牲者に祈りを捧げました。

また、浄土ヶ浜特設ステージでは、宮古港海戦の歌や盛岡の天然理心流の演舞、宮古港海戦の大型紙芝居を披露しました。同日入港した豪華客船スターレジェンドの乗客にも宮古港海戦について知ってもらうため、英語版のチラシを作成し、配布しました。

現在は9月16日のみやこ秋まつりへのパレード参加のために、衣装などを購入し、参加者の募集を行っています。

**Q.** この事業に期待することは何ですか？

A 今後は、衣装や大型紙芝居等を、必要とする団体やイベントに積極的に活用していただきたいと思います。フェリーでつながる北海道室蘭市をはじめ、全国に宮古港海戦の歴史が広まり、この事業が、宮古市をさらに盛り上げるきっかけになれば良いと思っています。

## 津軽石郷土芸能保存育成事業 津軽石郷土芸能団体協議会



**Q.** この事業を始めようと思ったきっかけは何ですか？  
A 津軽石地区には、多くの郷土芸能があり、それぞれに歴史と先人の想いが込められています。しかし、少子化や人口減少に伴い、伝承することが困難になってきています。歴史や先人の想いを継承していくために、子どもたちが郷土芸能に触れる機会を作らなければならないと思います、この事業を始めました。

**Q.** どのようなことをするのですか？

A 小中学生への郷土芸能の指導や歴史を学ぶ講座の開催、指導者同士の交流や津軽石郷土芸能祭の開催を予定しています。

**Q.** 現在の事業の進捗状況はどのような状況ですか？

A 各保存会と交流を行い、郷土芸能を伝承していくうえで課題や問題の解消に向けた意見交換を実施しています。また、津軽石郷土芸能祭に向けて、内容の企画や衣装・道具の整備を行っています。

**Q.** この事業に期待することは何ですか？

A 郷土芸能に触れることで、子どもたちの郷土愛が深まることを願っています。





# みんなの力で地域を創る

# 今年度の事業紹介

今年度、8月までに実施された7事業についてご紹介します。



宮古



## 「海の日」宮古港カッターレース

宮古港カッターレース実行委員会

「海の日」宮古港カッターレースは、7月15日に市魚市場前で開催されました。今回で26回目の開催となり、26チーム、約460人の選手が参加しました。

長さ9mのカッターに14人が乗り込み港内を往復する600mのコースで、力を合わせてオールを漕ぐ参加者の姿に、岸壁に詰めかけた多くの市民から大きな声援が送られていました。

9mのカッターを使用している市民レベルの大会は他にはなく、今では、「海のまちみやこ」を実感できる夏の風物詩です。これからも宮古のPR、水産振興とスポーツの普及に努めていきます。

田老



八神純子「ライト・ブルー・ライブ」

## 復興たろう大漁まつり

たろう大漁まつり実行委員会

前日までの雨が嘘のように、快晴の5月20日(日)に「復興たろう大漁まつり」が開催されました。波浪により、曳き船は中止となりましたが、大漁豊作を祈願する神事と黒森神楽による勇壮な演舞が披露され、復興支援として八神純子さんのライブも行われました。

さらに新企画「ろっくん・ロールケーキ早食い大会」では、ロックに合わせてロールケーキを食べる斬新な姿が、皆を笑顔にして大いに会場を沸かせていました。癒しと復興、地域住民が一体となったお祭りを今後も継続していきます。



宮古



## 第53回「音楽の夕べ」

宮古市で交響曲を演奏する会

8月5日、宮古市民文化会館大ホールにおいて第53回「音楽の夕べ」が開催されました。約90人の出演者による演奏を求めて、約350人が来場し、会場は、小中学生をはじめとする市民によって編成されたリアス合唱団の美しい歌声と、プロの方々が奏でるストリングスの心地良い音色に包まれていました。

プロの方々と共演する機会を与えることで、青少年の心の育成と音楽水準の向上、地域文化の振興を目的とするこの事業。市民の一体感を醸成し、宮古市民のさらなる結束を図る事が出来るよう、復興に向けた音楽の取り組みをこれからも続けていきます。



新里



### 新里地区生涯スポーツ推進事業

#### 新里地区生涯スポーツ推進協議会

新里地区では、子どもから高齢者まで、スポーツを通じた健康の保持増進と地域間や世代間の交流の場として、様々なスポーツ行事を年間を通して開催しています。

今年度は、6月16日にグラウンド・ゴルフ大会を開催し、28人が参加。山村広場での「芝」と「土」の二種類のコースを楽しみました。7月2日には、ナイターによるソフトボールリーグが開幕。8月下旬まで6チームが熱戦を繰り広げました。今後は、10月にスポーツ・レクリエーション祭とソフトボールプレリオフ大会、11月にビーチボールバレー大会、2月に室内グラウンド・ゴルフ大会を開催する予定です。

田老



### LIGHT UP NIPPON おらほの復興花火大会

#### WARADUKA

8月11日(土)にLIGHT UP NIPPON

おらほの復興花火大会が開催され、19時30分に全国15箇所で一斉に打ち上げられました。今回で8回目の開催となり、会場では地元店舗による出店やフリーマーケットが行われました。また、ステージイベントは、高橋龍山さんによる歌謡尺八、西浦秀樹さん・RIEさんによる歌とダンス、そして大雨の中でのMDSの熱いダンスは圧巻でした。

復興への想いを込めて最後に打ち上げられたメッセージ付き花火は、鎮魂と田老の未来への扉を開くような鮮やかなものでした。

川井



### 森・川自然力活用型かわい地域振興事業

#### 川井大自然交流実行委員会

実行委員会では、今年度3つの事業を実施しました。

6月17日(日)の「閉伊川釣り大会」では、市内外から54名が参加し、ヤマメ、イワナそれぞれ3匹計量で釣果を競い合いました。7月1日(日)は「木の博物館体験」を開催し、案内人の説明を受けながら分館1号不伐の森、兜明神岳・岩神山登山を行いました。7月14日(土)からは2泊3日で「フライフィッシング体験」を開催し、インストラクターや地元スタッフの指導により、3日間フライフィッシングを楽しんでいただきました。

参加者はリピーターも多く、豊かな自然の魅力を満喫していただける事業となっています。

新里



### サマーフェスタ2018 サマーフェスタにいさと実行委員会

8月4日(土)新里トレーニングセンター特設会場において、今回で20回目となるサマーフェスタにいさと2018を開催しました。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、提灯に彩られた昔懐かしい雰囲気の中、子どもたちによるジャンボ輪投げ大会でスタート。開会セレモニーの後、宮古水産高校太鼓部の宮水太鼓と新里小学校児童による新里太鼓の勇壮な演舞が披露されました。ステージでは、交流カラオケ大会やバンド演奏が行われ、懐かしのベンチャーズサウンドが流れると、会場はダンスホールと化しました。

イベントの最後に行われた恒例の大抽選会で盛り上がりは最高潮に達し、子どもから大人まで世代を超えた交流の場となりました。



# 宮古市地域イベントカレンダー H30.9月以降の事業紹介



平成30年度9月以降に予定されている地域創造基金事業を活用したイベントや行事などを紹介します。

※天候などの事情により、事業の中止や日程・場所などが変更になる場合があります。

月	日 程	イベント名(事業名)	開催場所	内 容	主 催	地 域
4		ウェルカムフラワーが迎える街並み創出事業	宮古駅、駅前商店街など	ウェルカムフラワーの飾りつけ ※～11月末まで実施予定	昭和通りのおかみさんもてなしたい	宮古
9	23日(日)	2018 オータムフェスタ in区界高原	道の駅区界高原	特産品等のPR、販売	project かどま実行委員会	川井
10	7日(日)	第72回田老地区体育大会	田老第一中学校校庭	田老地区住民の大運動会	田老地区体育大会実行委員会	田老
10	7日(日)	川井地域大運動会	川井小学校	川井地域住民総参加の大運動会	川井地域大運動会実行委員会	川井
11	4日(日)	川井郷土芸能祭	川井小学校	川井地域郷土芸能団体の活動成果発表	川井郷土芸能団体連絡協議会	川井
11	4日(日)	和井内ふるさと収穫祭	和井内ふるさと会館	地域農産物、餅・団子等の販売 十割そば食堂開設・そば打ち体験 ステージイベントなど	和井内区	新里
11	17日(土)～	復興 冬のイルミネーション	宮古市役所前歩道橋	イルミネーションの設置 ※平成31年2月24日(日)まで 実施予定	宮古商工会議所青年部	宮古
11	18日(日)	江繫地区収穫感謝祭	旧江繫小学校	地域の郷土芸能発表、写真・絵画 コンクール開催	江繫地域づくり委員会	川井
11	25日(日)	踊りの里OGUNI	小国地域 振興センター	郷土芸能等の発表、名産品・写真 コンクール	小国地区地域づくり委員会	川井
11		津軽石郷土芸能 保存育成事業	津軽石地区	郷土の歴史を学ぶ講座の開催や 郷土芸能の伝承 ※～12月頃まで実施予定	津軽石郷土芸能団体協議会	宮古
1	20日(日)	ピヨンカフェスティバル	宮古市総合福祉 センター健やか ホール	手作り工作や積み木など、 親子が遊べる場の提供	MIYAKO. Revolution21	宮古
	通年	宮古港海戦の歴史を 広く内外に広める事業	市内各所	宮古港海戦についてのイベントや 市民向け学習会を開催	宮古港海戦の会	宮古
	通年	新里地区 生涯スポーツ推進事業	新里トレーニング センター、新里 生涯学習センター など	各種スポーツ大会等を開催し、 生涯スポーツを推進 ・スポーツ・レクリエーション祭 ・ビーチボールバレー大会 ・室内グラウンド・ゴルフ大会 ・各地区体育行事開催	新里地区生涯スポーツ 推進協議会	新里



# 義経の足跡をたどる

其の象

悲劇の名將、源義経は文治5年(1189)4月、兄の頼朝に追われ、平泉で自刃したとされています(吾妻鏡より)。この英雄に対する哀惜の念から、義経はひそかに平泉を脱出し、北へ逃げ延びたという「義経北行伝説」が東北各地に多く残されており、宮古市内にも義経北行伝説にかかわる史跡が点在しています。これまで、新里地域と田老地域の史跡を紹介してきましたが、今回は川井地域に残る史跡を紹介いたします。

## 川井地域の史跡紹介

川井地域には、「鈴ヶ神社」と「判官神社」があります。鈴ヶ神社は、義経を追いかけて奥州に入り閉伊の地までやってきた静御前を祀った神社です。義経の子を身ごもった静御前は、難産の末この地で命を落としたといわれています。

また、判官神社は、義経主従がここにしばらく滞在し、鞍馬寺の毘沙門天を奉祈したといわれています。古くから山伏の家系で、その先祖は義経とともに北行した山名駿河守義

信と同族と伝える箱石の旧家山名家が祀る神社です。

このほかに、平泉の泰衡の弟、泉三郎忠衡の三男を先祖としている「泉沢家跡」、弁慶直筆の書と伝わる軸があったと伝えられる「道又家」、義経の愛馬「小黑」の産地とされる「小黑地区」があります。

「判官神社」と「鈴ヶ神社」は、岩手県観光連盟の「伝説義経北行コース」の看板が立てられています。



○鈴ヶ神社  
静御前の屋敷跡に建てられたといわれる鈴ヶ神社



○判官神社 JR 箱石駅近くにある判官神社



### 【義経略歴】

平治元年(1159)

父・源義朝、母・常盤御前の九男として生まれる。「平治の乱」で父義朝が死す。2歳の時に父を失うが、仏門に入ることを条件に助命。牛若丸(義経の幼名)7歳の時、京都鞍馬寺に入門。

承安4年(1174)

京都鞍馬寺を脱出。三條吉次・季春(金売吉次)に伴われて奥州藤原秀衡のもとに頼る。この時16歳前後。奥州下向の途中に元服して「源九郎義経」と名を改める。

治承元年(1180)

兄頼朝、相模の国石橋山で挙兵。秀衡の制止を聞かずに佐藤継信・忠信以下手兵二十余騎を率いて参陣。黄瀬川の陣所で対面する。

元暦元年(1184)

宇治川の戦いで木曾義仲を破る。次いで一ノ谷で平家を破る。

文治元年(1185)

屋島の戦い、次いで壇ノ浦の戦いと連勝してついに平家を滅亡させる。

兄頼朝と不和になり、九州へ落ち延びる途中に難破して、吉野など各地に潜む。

文治3年(1187)

奥州に下り再び藤原秀衡を頼る。

文治5年(1189)

4月29日兄頼朝の圧力を受けた藤原泰衡に攻められ自刃。その後、泰衡も頼朝に攻められ、藤原氏滅亡。

文治4年(1188)

実は、これより前に全てを予見していた藤原秀衡の遺言により、平泉高館をひそかに脱出して北上を続け、ついに蝦夷に渡って行ったという。

(参考資料)

義経北行伝説 生きていた源九郎判官義経  
伝説義経北行コース：岩手県観光連盟